

23年度決算の特徴

1. 予算（補正後）との比較

(1) 資金収支収入の部

- ・学納金収入は、大学において学生数減少等により補正予算で減額補正するも、高校部門の増により、全体では18百万円の増加となる
- ・補助金収入は、補正予算にて減額補正したため、ほぼ予算並みとなる
- ・前受金収入は、大学において入学生の前後期一括納入比率上昇もあり、全体では17百万円の増加となる

(2) 資金収支支出の部

- ・人件費支出は、補正予算にて増額補正したため、ほぼ予算並みとなる
- ・教育研究経費支出は、大学の奨学費および報酬手数料等の減により、全体では11百万円の減少となる
- ・管理経費は、補正予算にて増額補正したため、ほぼ予算並みとなる

(3) 次年度繰越支払資金

- ・収入において学納金収入・前受金収入の増加、支出において教育研究経費等の減少と年度末休日のため退職金を未払い計上したため、次年度繰越支払資金は432百万円から516百万円と84百万円の増加となる

(4) 消費収支

- ・帰属収入は学納金の増加、消費支出は教育研究経費の減少で、当年度支出超過額は△448百万円から△419百万円と赤字が29百万円縮小した
- ・第1号基本金において、その他機器備品の過年度除却繰延高3百万円を取崩している

2. 前年度決算との比較

(1) 資金収支収入の部（有価証券買換えによる、収入支出両建て計上額除く）

- ・収入合計は、前年度比412百万円増の1,669百万円となる
- ・大きな要因は、新学部設置申請用も含め特定引当預金（有価証券）を前年度比410百万円増の480百万円取崩（内訳・新学部設置申請用325百万円、高校95百万円、募集強化投資60百万円）によるものである
- ・主要な収入である学納金収入は、大学が学生数減少により75百万円の減、高校が生徒数増加により44百万円の増（ただし、奨学費も前年度比45百万円増加）となり、全体では31百万円の減少となる
- ・経常費補助金収入は、大学が学生数減少により26百万円減、高校が生徒数増加により9百万円増となり全体としては、17百万円の減少となる
- ・その他として、有価証券買換え売差額が15百万円の減少、前受金が大学の入学者数が38名増により21百万円の増加となる

(2) 資金収支支出の部（有価証券買換えによる、収入支出両建て計上額除く）

- ・支出合計は、前年度比116百万円増の1,446百万円となる
- ・経常支出では主要な支出である人件費は退職金が減少するも、職員数増・非常勤講師給与増により10百万円の増加となる
- ・教育研究経費は奨学費において、大阪府支援補助金の否認（37百万円）と奨学生の増により51百万円の増となり、全体では55百万円の増加となる
- ・管理経費は、大阪府支援補助金と国の就学支援金の22年度分否認（16百万円）及び新学部設置関連経費（8百万円）により27百万円の増加となる
- ・施設・設備関係支出は、募集（クラブ）強化投資により37百万円の増加となる

(3) 資金収支差額及び次年度繰越支払資金・手持ち資金総額

- ・資金収支差額は、特定引当預金（有価証券）を480百万円取崩したことから、前年度比281百万円改善の227百万円の黒字となり、次年度繰越支払資金も516百万円となる
- しかし、23年度決算は上記のとおり

①学生数減少による学納金・経常費補助金収入の減少（大学）

②大阪府支援補助金否認による支出の増加（高校）

③募集強化投資の支出の増加

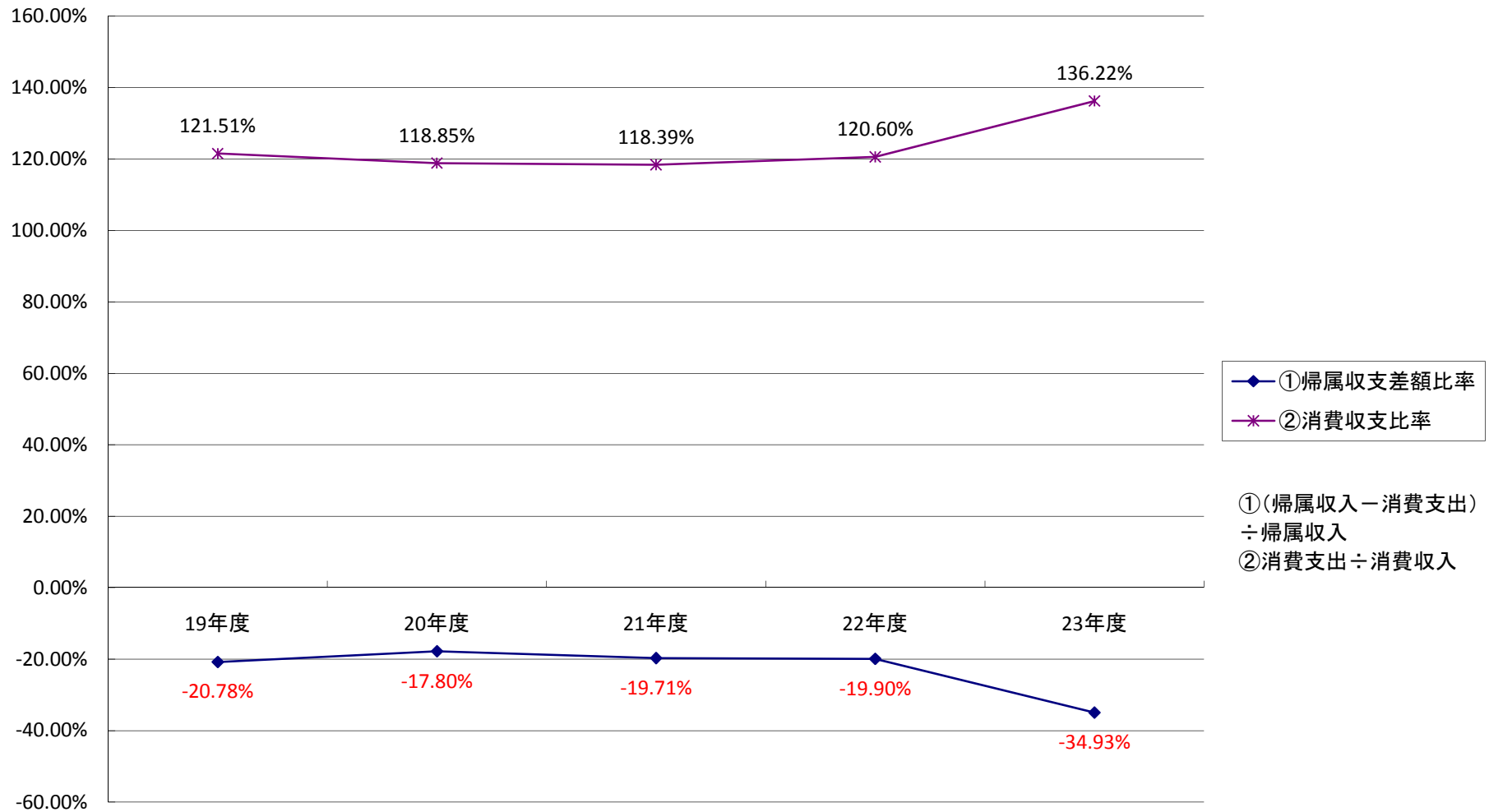
④新学部設置関連経費支出の増加

などの要因で、特定引当預金（有価証券）が480百万円減少したことにより、手持ち資金総額は、前年度比253百万円減少の1,203百万円となり、実質の資金収支差額は△253百万円と言える

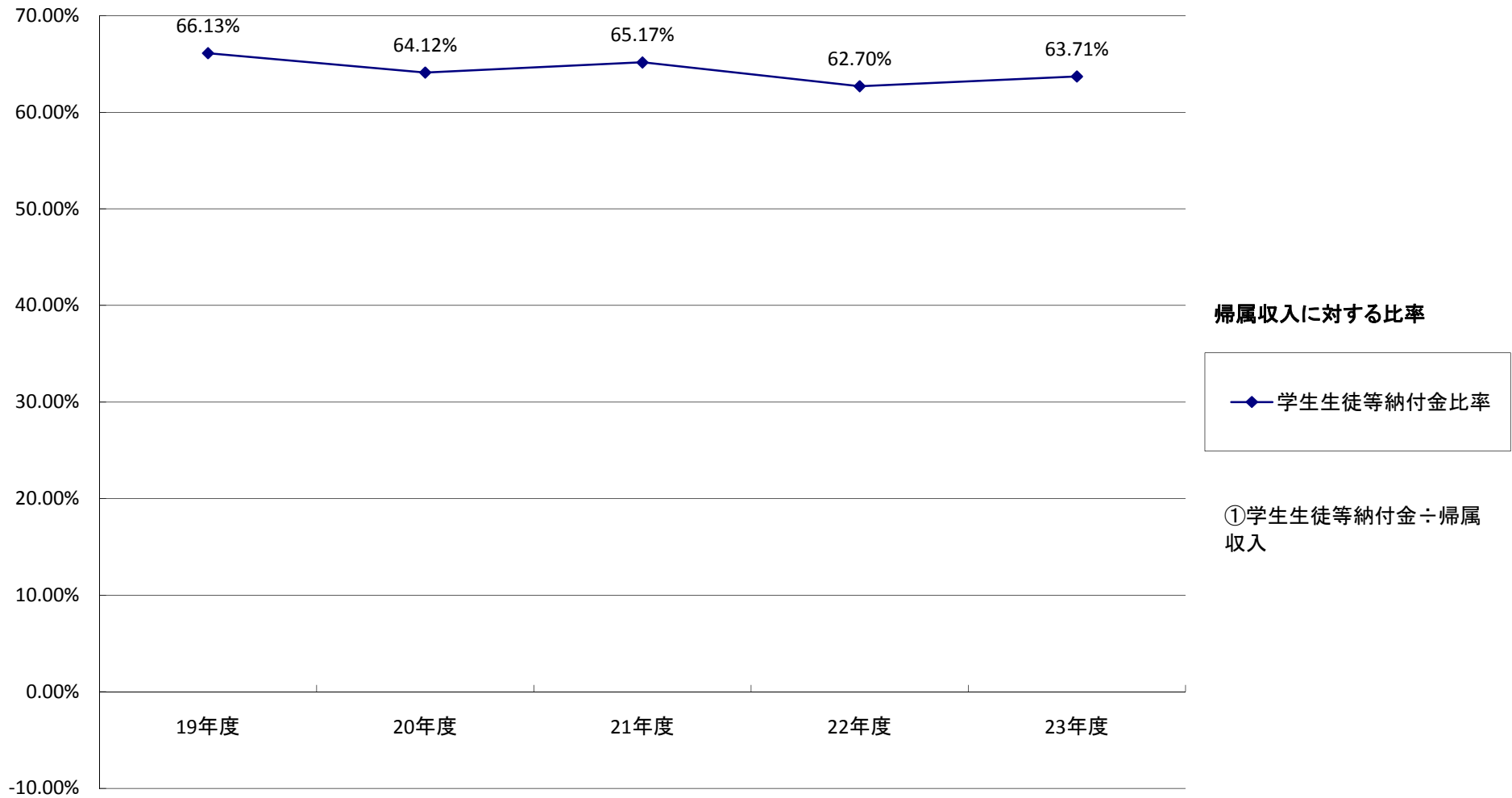
(4) 消費収支

- ・帰属収支差額は、上記資金収支で説明のとおり（(3) -①、②、④）学納金・補助金収入の減少と、支出全般の増加により、前年度比161百万円悪化の△408百万円、帰属収支差額比率は前年度比14.9%悪化の△34.9%となる

財務比率 -その①-



財務比率 -その②-



財務比率 -その③-

